

金沢大学広報誌

[アカンサス]

Acanthus

54

2024
SUMMER

PRESENT

金沢大学オリジナル
QUOカード



抽選で10名様

令和6年
能登半島地震における
本学の取り組み

金沢大学の最新情報を紹介!

NEWS&TOPICS

学生による学生のための連載

Enjoy!!

Acanthus学生アワード

医学展2023潜入レポート

和田学長就任3年目インタビュー

輝く未来に向けた
金沢大学の展望

就任3年目!

和田隆志学長に聞く!

輝く未来に向けた金沢大学の「これまで」と「これから」

世界が大きく変容している中でも、常に未来のあるべき姿を描き、挑戦し続ける和田学長。2年間の歩みの振り返りと、今後の展望を語ります。

Design:POLUX Text:Public Relations strategy office staff

「未来知」により新しい価値を創出し続け、オール金沢大学で社会貢献を推進



金沢大学長
わだ たかし
和田 隆志

Profile

金沢大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。金沢大学教授、金沢大学長補佐、金沢大学医薬保健学域医学類長、金沢大学副学長(研究力強化・国際連携担当)を歴任。2020(令和2)年4月、国立大学法人金沢大学理事(研究・社会共創担当)／副学長に就任。2022(令和4)年4月から現職。

ママードゥア 今年の1月1日に令和6年能登半島地震が発生しました。被災地の復旧・復興に向けた、大学としての取り組みについてお話をいただけますか？

学長 まず、被災された全ての皆様、今なお不自由な暮らしを強いられている皆様に、改めて心よりお見舞い申し上げます。金沢大学は、1月1日に災害対策本部を立ち上げ、1月30日に「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。本センターは、オール金沢大学の下、文理医の英知を集結することで、一日も早く被災地に日常の営みを取り戻し、未来へつなぐことを目的としています。2月と4月には、地震調査・支援活動報告会を開催しました。今後も、地域・自治体・企業と協調・共創し、被災地の復旧・復興と創造的発展に尽力していきます。

ママードゥア 今年は、学長に就任されて3年目になります。簡単に、これまでの歩みを振り返っていただけますか。

学長 2022年5月に公表した金沢大学未来ビジョン「志」において、研究、教育、経営の3領域について「未来知」による社会貢献に向けてあるべき姿を明示し、さまざまなアクションを起こしてきました。それについて、目に見える成果がすでに表れてています。まず研究面では、2023年度に「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)*1」およびその施設整備事業に採択されました。これにより、未来知実証センター棟を軸とした融合研究、実証研究を加速する体制が整いました。また、ベンチャー企業のスタートアップ支援や、その成長を強固にサポートするベンチャーキャピタル「株式会社ビジョンインキュベイト」を設立。国立大学による自己財源100%出資での設立は国内初で、アカデミアシーズの発掘や育成を推進します。関連して、北陸地域の大学・高専発スタートアップ創出プラットフォーム「Tech Startup HOKURIKU」も発足。これ

らの事業は、すべて世界トップレベル研究拠点充実のための重要な根幹となります。

ママードゥア どれも目覚ましい成果ですね。教育面はいかがでしょうか。

学長 教育面では、2024年度から融合学域観光デザイン学類、スマート創成科学類と理工学域電子情報通信学類の3学類で、計110名の定員増を実現しました。特に、観光デザイン学類の定員が35名の純増となったことは、本学の将来構想が国にしっかりと認められた結果だと受け止めています。この定員増に併せて、接続する大学院を改革し、博士人材の養成を強化、産業界や地域のニーズに応えます。また、ダイバーシティ推進に関する取り組みの一環として、2024年度入学者選抜から女子枠特別入試を、理工学域に導入しました。小中高大院混成プログラムである「金沢大学 STELLAプログラム」も、未来の科学技術イノベーターを育てる画期的な試みです。このように、初等中等教育から大学院まで一貫した教育システムを構築しています。

ママードゥア 研究と教育の基盤となる経営面についてもお聞かせください。

学長 経営面では、2022年に「国立大学経営改革促進事業」に採択され、強固な財政基盤が形成されました。また、「学生ファースト」の観点から、角間キャンパス中地区に雑談スペース「○OKU○KU(わくわく)」、新食堂「ナカフクリ食堂」をオープン。食堂には、学生の起業スペースも設けています。地域や社会との連携も重要な視点です。附属病院では、3月に第2中央診療棟を設置し、医療体制の強化を図りました。北陸地区4国立大学が運営する「北陸未来共創フォーラム**2」も、活動を一層充実させています。

ママードゥア 多岐にわたる取り組みが進んでいますね。私も国際涉外・SDGs担当学長補佐として、金沢大学のさらなる発展に貢献していきたいと思います。

学長 2023年11月には、ママードゥア先生が推進する事業***3がユネスコ／日本ESD

賞を受賞されましたね。持続可能な開発のための教育が国際的な評価を受けたことを大変うれしく思います。このほか、2年連続で国際的な総合科学雑誌「Nature」に記事広告が掲載されたことで、本学の国際的なプレゼンスが高まっています。2023年5月には、本学でG7富山・金沢教育大臣会合のエクスカーションが行われました。活発な意見交換を経て「金沢大学ユース宣言」を発表した経験は、学生・生徒にとって一生の財産になったと思います。私は、大学の日常生活がグローバルであることが重要だと考えています。4月には、日本語教育・日本文化研究の拠点となる国際日本研究センターを設置しました。異文化理解のためには、まず自国の文化を深く知ることも必要です。学生の皆さんには、真の国際人として飛躍していくことを期待しています。

ママードゥア 私も国際日本研究センターの一員として、引き続き全力で取り組んでいきたいと思います。最後に、今後の展望についてお聞かせいただけますか？

学長 被災地に立地する国立大学として、引き続き自治体などと協働し、地震からの復旧・復興および支援に全力を尽します。また、こうした活動に真摯に取り組んでくれている学生・教職員に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。人は宝、財産です。被災された方々に心から寄り添い、全てのステークホルダーの皆様の声に耳を傾けながら、「地域に愛され世界に輝く金沢大学」であり続けます。



金沢大学学長補佐
(国際涉外・SDGs担当)
ママードゥア

アイダ
Mammadova Aida

Profile

アゼルバイジャン出身。金沢大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。国際日本研究センター准教授。

*1 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS): 地域の中核大学や特定の研究分野に強みを持つ大学に対し、研究力強化支援等を図る文部科学省主導の事業。69件の申請があり、金沢大学を含め12件が採択された。

*2

北陸未来共創フォーラム: 北陸の多様な企業・行政機関等と協業する産学官金プラットフォーム。

*3 ママードゥア准教授主導の「日本のユネスコ生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)およびジオパーク内の遠隔地域活性化を目的とした世代間学習」事業。日本の機関・団体が受賞するのは、賞の創設以来、7年ぶり2回目となる。



金沢大学が紡ぐ「これから」3つのポイントを紹介!

和田学長就任から2年間で築いてきた基盤をもとに、今後金沢大学が未来に向か、さらなる飛躍を遂げるための取り組みを紹介します。



Point 1

金沢大学の「未来知」を社会実装する拠点を整備。



実現したい未来社会の「ショーケース」をピックアップ!

DTx - 新しい治療の創造
DTxにより、内科的治療、外科的治療に続く第3の新しい治療手段の創造を目指します。
※DTx(Digital Therapeutics):ソフトウェア(アプリ)などによる新しい治療法。

融合研究域 融合科学系 野村 章洋 准教授

空飛ぶ車のフレーム
軽くて強い大型ドローン用フレームの開発を通じ、未来の「空飛ぶ車」を構想します。

理工研究域 機械工学系 若子 優菜 准教授

健康寿命100年の社会
細胞老化の謎を解き明かし、ヒトが100歳まで健康新生を生きられる社会の実現に貢献します。

がん進展制御研究所 城村 由和 教授

二酸化炭素資源化TSA
CO₂の回収・再資源化技術を用いて安定した炭素循環を構築し、地球沸騰化を阻止します。

新学術創成研究機構 梶玉 昭雄 教授

2024年度末に完成予定の未来知実証センター棟。金沢大学が強みを持つ基礎研究やコア技術を積極的に活用し、異分野融合研究を加速化します。そして、生み出された研究成果の実用化に向け、広大なキャンパスを使った実証実験を展開し、「未来知」を社会へ実装していく拠点です。

未来知実証センターでは、実現したい未来社会を、誰もが分かりやすい“ショーケース”として見える化。国内外を問わず、さまざま

なバックグラウンドを持つ多様なステークホルダーが集い、ワクワクしながら未来社会について語り合う場となることを目指します。このほか、金沢大学発VC「(株)ビジョンインキュベイト」によるスタートアップ支援も充実。上階のフロアになると、事業化に近づくイメージとなっています。また、2023年4月に本格稼働したバイオマス・グリーンイノベーションセンターとも連携することにより、産学官金など、業界の壁を越えた共創による相乗効果が期待されます。

未来知実証センターは、金沢大学の「未来知」をキーに、時代の変革点となる破壊的イノベーションの実現を目指します。そして、生み出された新たな価値創造活動を支えるとともに、最先端の研究成果を社会に還元するべく、邁進していきます。

Check!

令和6年8月27日(火)
TAKE OFF EVENT 開催!



Point 2

被災地能登の日常の営みを取り戻し、未来につなぐ。



小中高大院一貫した教育で、未来を拓く人材を育成。

金沢大学は、KUGS(金沢大学グローバルスタンダード)として、自己の使命を国際社会で果たすとともに、知識基盤社会の中核的なリーダーとなり、現場の困難に立ち向かっていける人材を育成しています。このKUGSを軸に、小中高大院混成で次世代の科学技術人材の育成を行う金沢大学

STELLAプログラムや、博士学位取得後の活躍を確約する優秀で志高い学生に充実した支援を行うHaKaSe+など、多様な取り組みを展開しています。金沢大学では、初等中等教育から卒業・修了後の活躍を見据えて、きめ細やかで一貫した教育システムにより、未来を拓く人材を育成していきます。



令和6年能登半島地震における本学の取り組み

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震は北陸地域に甚大な被害を及ぼしました。金沢大学は石川県にある総合大学として、被災地の復興と継続的発展を強力に推進していきます。

Design:POLUX Text:Public Relations strategy office staff

発災直後に災害対策本部を設置し、迅速に始動。

金沢大学は、発災直後に角間キャンパスと附属病院に災害対策本部を設置し、学生・教職員・入院患者の安否確認や施設の状況確認を開始しました。角間キャンパス、宝町・鶴間キャンパス、附属病院、附属学校園など、能登地域以外の拠点においても、速やかに災害対策本部を設置し、各拠点の状況確認を行っています。

また、建物は安全な使用が可能な状態であり、大学入学共通テストや教育・研究活動、診療を継続することができました。

また、附属病院の災害派遣医療チームが出動し、地震学や地質学などの研究者たちが調査開始へと動き出しました。



発災以降、災害対策本部会議を随時開催。



医療の専門家が被災地と避難所等で継続支援。

発災直後、金沢大学附属病院の災害派遣医療チーム「DMAT」が始動。市立輪島病院に入り、他県の隊とともに医療支援活動を行いました。附属病院では、被災地の透析患者や重症患者を受け入れました。また、多職種の医療スタッフが石川県などから要請に基づき、医療支援活動を継続的に行ってています。

1月5日には、ここでのケア専門チーム「KEYPAT」を設置。公認心理師の資格を持つ教員を中心とした全学的チームで、カウンセリングや健康調査などを実施しています。

発災から2ヶ月間の 金沢大学の主な動き

1月

- 1月1日(月・祝)
16:10頃 令和6年能登半島地震 発生
- 災害対策本部を17:26角間キャンパスに、18:00附属病院に設置
- 学生・教職員を対象に、安否確認メールを発信
- 附属病院の入院患者の安全や施設の状況を確認
- 金沢市内のキャンパスなどの施設を中心に被災状況を確認
- 附属病院の災害派遣医療チーム(DMAT)は石川県立中央病院に集合
- 石川県小児周産期リエゾンの要請に基づき、周産母子センターの医師を石川県庁災害対策本部へ派遣(以降、石川県などの要請に基づき、多職種の医療スタッフの派遣を継続)
- 1月2日(火)
■安否確認メール第2報を発信
- 1/4~5の授業は遠隔実施とすることを決定
- 附属病院のDMATは市立輪島病院へ

1月3日(水)
■公式Webサイトに令和6年能登半島地震の特設ページを開設

1月4日(木)
■1/9~11の授業は遠隔実施とすることを決定

■遠隔授業を実施

1月5日(金)
■ここでのケア専門チーム(KEYPAT)、金沢大学合同調査チーム(KUD)を設置

1月5日(金)

- 「在学者ワンストップ窓口」を開設、休日も含めて日本語・英語で対応
- 1月6日(土)
■「金沢大学家計急変に関する緊急学生支援金」設置
- 1月9日(火)
■角間キャンパスにおける大学入学共通テスト追試験実施を公表
- 1月11日(木)
■1月15日以降の対面授業再開を決定
- 1月13日(土)~14日(日)
■大学入学共通テスト金沢大学試験場を運営
- 1月15日(月)
■対面授業再開(受講できない学生には個別に対応)
- 被災学生を対象に学生留学生宿舎の入居者募集開始
- 学生留学生宿舎の寄宿料など免除申請の受付開始
- 1月19日(金)
■「金沢大学被災学生・施設支援等基金」設置
- 1月23日(火)
■令和6年度金沢大学新入学者などへの経済的支援として、学生留学生宿舎(北溟、先駆)の無償提供を決定
- 1月25日(木)
■盛山文部科学大臣と学長が意見交換

2月

- 2月2日(金)
■馳石川県知事と学長らが意見交換
- 石川県教育委員会の主導のもと、石川県文教会館にて、個別避難中の被災高校生への学習支援開始(学習環境提供/学生派遣)
- 2月3日(土)
■令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会を開催
- 2月5日(月)
■令和6年度入学科・授業料(前期)免除(令和6年能登半島地震による家計急変)の申請受付を開始
- 1月19日(金)
■令和6年度入学科・授業料(前期)免除(令和6年能登半島地震による家計急変)の申請受付を開始
- 2月12日(月・祝)
■馳石川県知事と学長・附属病院長、日本医師会会長らが意見交換
- 2月14日(水)
■白山ろくなどで集団避難中の被災中学生への学習・課外活動等の支援開始(学生派遣)
- 2月22日(木)
■有志学生・教職員が七尾市でボランティア活動を実施

1/1~3 被災地での医療活動

附属病院のDMATは発災直後に始動。市立輪島病院へ入り他県からのDMATと医療支援活動を行いました。1月4日以降はDMAT指揮所(活動拠点)を附属病院内に設置しました。

1/4~22 附属病院での重症患者受け入れ

(上)他県からのDMATの協力を得て、附属病院の教職員は本院での患者受け入れ活動に注力。(下)2019年5月に整備したヘリポートを活用し、ドクターヘリで重症患者を附属病院に搬送。

1/1~継続中 避難所などへの医療スタッフ派遣

日本医師会災害医療チーム(JMAT)として、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などを能登地域の避難所へ派遣し、血栓症が疑われる方などへの診察を行いました。また、1.5次避難所での診察や石川県などの要請に基づく医療スタッフの派遣も継続して行っています。

1/5~継続中 キーパット「KEYPAT」によるこころのケア

KEYPATには4チームがあり、留学生を含む本学の学生とその家族、附属学校園の児童・生徒とその家族、教職員のメンタル支援を行っています。演奏会(上)や「中長期のこころのケア」や「支援する人々のこころのケア」をテーマにした講演会(右)も開催しています。

災害中長期(復興期)の問題

- ・被災者は、生活のパターンの変更、経済的苦境、地域コミュニティの喪失等が引き起こる二重的ストレスを感じる
- ・被災全員に自己回復力がある
- ・被災者の災害後回復のサポート
- ・心的問題は必ずづかれない(回復、癒見)
- ・問題が複雑化していく(ハサミ状態)

6 Acanthus 54

Acanthus 54 7



能登半島地震による文化財被災状況



遺跡被災状況調査に加え、大学独自で被災文化財のデジタルアーカイブ化に取り組む。

古代文明・文化資源学研究所
足立 拓朗 教授

AIと空中写真を用いた被災建物の損傷程度の自動判定システムの開発



地震後に実施される建物被害認定調査について、AIと航空写真を用いた判定運用を研究。

融合研究域 融合科学系
藤生 慎 准教授

地盤被害調査について



甚大な地盤被害が発生した本地震における、地盤の液状化・側方流動についての調査速報。

理工研究域 地球社会基盤学系
小林 俊一 准教授

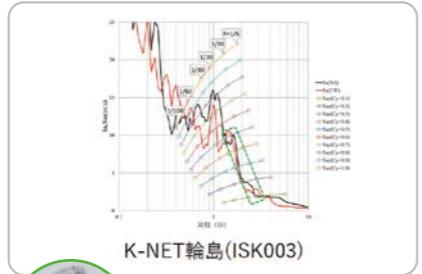
総合的な学術調査研究を能登の未来へ生かす。

今回の地震はなぜ起きたのか、今後、どのような問題が起こるのか。金沢大学の研究者たちは、地震の痕跡が変化する前に調査・記録するべく現地へ向かいました。

地震の調査研究は、地震学、地質学といった理工系分野だけでなく、人文科学や

文化資源学などの文系分野、医学・薬学・保健学などの医療分野など、あらゆる学術領域からのアプローチが必要です。総合大学である金沢大学は、文理医の研究者が集結し、地震・災害に強く、安心安全で住みよい能登の創造的復興に寄与します。

建物被害について



住宅建物や寺社建築物などの被害について地震の揺れの周期と損壊との関連などを調査。

理工研究域 地球社会基盤学系
村田 晶 助教

令和6年能登半島地震津波の特徴



金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学ほかと連携し、津波痕跡・被害調査を継続中。

理工研究域 地球社会基盤学系
由比 政 年 教授

避難生活におけるエコノミークラス症候群の調査



避難所では、不動や脱水傾向になり血栓リスクが高まるため、予防につなげるための調査を継続中。

医薬保健研究域 保健学系
森下 英理子 教授

九十九湾・珠洲沿岸における海底地質・生物への影響調査



佐川拓也准教授と共に、本地震による海の中への影響を地質学および生物学の視点から調査。

理工研究域 地球社会基盤学系
ジェンキンズ ロバート 准教授

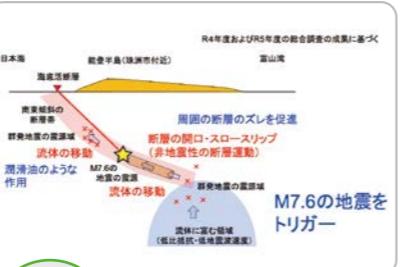
令和6年能登半島地震の震災遺構と震災復興ツーリズム



後世へ震災を伝承し、防災教育などに役立てるため、震災遺構の保存と活用について提唱。

人間社会研究域 地域創造学系
青木 賢人 准教授

令和6年能登半島地震の発生メカニズム



地震活動や地殻変動などに基づき、流体が引き金となったM7.6の地震の発生過程を推定。

理工研究域 地球社会基盤学系
平松 良浩 教授



学生ボランティアが被災者の生活や学びを支援。

金沢大学は、被災地域にある国立大学として長期的な復興支援と地域再生に貢献するため、学生・教職員ボランティアを被災地などへ継続的に派遣しています。

1月11日から学生・教職員を対象に、ボランティア活動希望者の事前登録を開始。

避難所での炊き出しや清掃活動、街頭募金、現地での家財道具の運搬など、さまざまな支援活動を行っています。また、被災により金沢市や白山市に避難していた中学生・高校生を対象に、石川県教育委員会の主導のもと、学びの支援を行いました。

Volunteer Activities

ボランティア活動

学生・教職員のボランティア参加希望者は752人。被災した家屋から運び出しが困難な家財道具はその場で分解して運搬。



避難所では、炊き出しや清掃作業など、被災者の避難生活を支援しました。



Learning Support

学びの支援

人間社会学域、人間社会環境研究科の学生ボランティアが中心となり、金沢市内および近郊各所に避難していた中高生を対象に、授業の補助や昼食提供の準備、心のケアを含めた交流活動などを行いました。今後も、地域再建のための教育と人づくりを推進します。



養護教諭特別別科の学生は金沢市に集団避難していた中学校の保健室活動を支援しました。

Information

予告 第3回令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会

金沢大学は、今後も教職員・学生が協働し、被災された方々に寄り添う支援活動と、いち早い復旧・復興に向けた研究活動を継続して行い、地震に関する報告会を定期的に開催していきます。第3回報告会は7月21日(日)能登で開催予定です。



令和6年能登半島地震 被災学生・施設支援等基金

令和6年能登地震により被災した学生に対する支援、および被害を受けた教育・研究施設の復旧のための基金に、これまでたくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございます。引き続き、皆さまからのご協力を心よりお願い申し上げます。



金沢大学基金



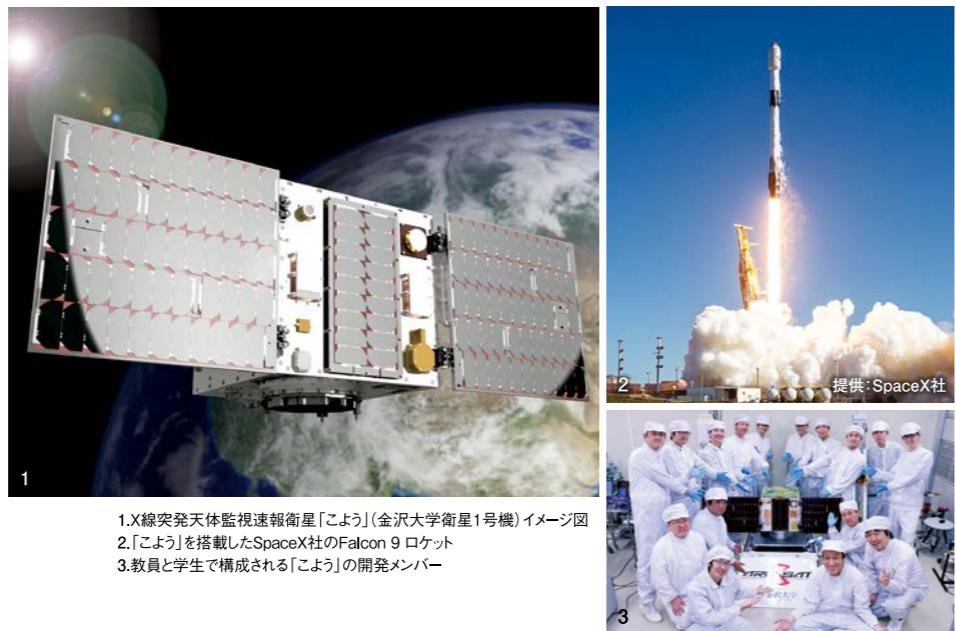
NEWS & TOPICS

金沢大学衛星1号機「こよう」など金沢大学の最新情報を紹介します。
注目の取り組みやイベント・研究など本学の「今」を感じてください。

June 2024

学生主体で開発の衛星「こよう」打ち上げ・地上との通信に成功

2023年12月2日、本学学生と教員が一丸となって開発したX線突発天体監視速報衛星「こよう」が米国SpaceX社Falcon 9ロケットで打ち上げられました。6日までに、搭載した通信系の全てでデータの送受信ができ、衛星が自律的に太陽電池パドルを開展、太陽電池の向きを太陽方向に維持していることが確認されました。「こよう」のミッションは、最先端の宇宙物理学の研究と実際の衛星開発を通じた宇宙理工学教育の実践であり、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の革新的衛星技術実証3号機の実証テーマとして選定されています。



1.X線突発天体監視速報衛星「こよう」(金沢大学衛星1号機)イメージ図
2.「こよう」を搭載したSpaceX社のFalcon 9ロケット
3.教員と学生で構成される「こよう」の開発メンバー

本田圭佑氏が代表を務めるNow Do社と包括連携協定

2023年10月1日、サッカー界の本田圭佑氏が代表取締役を務めるNow Do株式会社と、社会課題の解決やイノベーション人材の養成に向けた包括連携協定を締結。本田氏と本学は、2016年「金沢大学スポーツ・地域活性化Dreamプロジェクト」に係る協定締結以降、本学敷地内に整備したサッカー場における石川県のサッカーの普及および青少年の育成など、継続的に連携事業を行っています。



Now Do株式会社の代表取締役の本田圭佑氏と和田学長

ナカフクリ食堂がオープン、学生の起業スペースも設置

2023年10月2日、角間キャンパス中地区に「ナカフクリ食堂」がオープンしました。食堂は、6つのブランドのブースが揃うフードコートで、学生の起業スペースも設けています。「ころころ食堂」は、学生が食材の仕入れから調理、運営までのすべてを担っており、廃棄予定の規格外野菜を使用したスープなどを提供しています。食堂の壁や机に彩られたメッセージや、テラス席のくつろぎ空間も特色となっています。



6つのフードブランドが並ぶ食堂

第17回ホームカミングデイでヴァーチャルキャンパスを公開

2023年10月28日、角間キャンパスで第17回ホームカミングデイを開催しました。今回は、同窓生の皆様からご提供いただいたキャンパスの写真などをもとに、ヴァーチャル空間に旧城内キャンパスを再現したヴァーチャルキャンパス見学会が初開催され、来場者は母校の懐かしい学び舎へのタイムスリップ体験を楽しみました。

12月9日には、第12回留学生ホームカミングデイを角間の里で開催しました。



ヴァーチャルキャンパス見学会を体験する同窓生の方

学生の活動や研究を体感できるイベントを開催

2023年10月28、29日、角間キャンパスで「第60回金大祭」を開催。本学名誉博士で、環境経済学など多くの分野で日本における第一人者である宮本憲一先生による講演会も行われました。

10月28日には、理工学域「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」も開催。各学類の研究室・学生による展示、実験体験コーナーは子どもにも大好評でした。

ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー



金沢大学のプロジェクトがユネスコ／日本ESD賞を受賞

2023年11月2日、国際日本研究センターのMammadova Aida准教授が推進する「日本のユネスコ生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)およびジオパーク内の遠隔地域活性化を目的とした世代間学習」事業がユネスコ／日本ESD賞を受賞しました。同賞は、ESD活動に取り組む機関・団体が実施する優れたプロジェクトを表彰するものです。日本の機関・団体が受賞するのは、賞の創設以来、2件目となります。

※50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録するもの。



パリで開催された授賞式でスピーチする塙川達大理事

金大祭



医学類旧書庫など5件が登録有形文化財に登録

3月6日、医学類旧書庫、医学類解剖標本庫、医学類病理標本庫、医学類西面南旧正門および煉瓦塀、医学類西面北煉瓦塀の5件が「国土の歴史的景観に寄与しているもの」の基準を満たすとして、登録有形文化財*に登録されました。本学は歴史的財産を後世に引き継ぐべき文化的資産として適切な保存と活用を行っていきます。

*50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録するもの。



医学類旧書庫(旧制金沢医科大学附属図書館書庫)

附属病院第2中央診療棟が完成、手術室を増設

3月18日から、附属病院第2中央診療棟の全面供用を開始しました。本診療棟には、抗がん剤治療を行う外来化学療法センターを移設し、22床から38床に増床しました。また、手術支援ロボット「hinotori」や「da Vinci」が設置された手術室、血管造影が可能なハイブリッド手術室を増設しました。既存の中央診療棟の改修完了後には、手術日程のスムーズな調整が可能となる予定です。



手術支援ロボット「hinotori」が設置された手術室

学位記・修了証書授与式 入学宣誓式を挙行

3月22日、令和5年度金沢大学学位記・修了証書授与式を挙行し、卒業者1,733名、修了者等713名、計2,446名に学位記または修了証書が授与されました。和田学長から「卒業者・修了者へ、誇りと自信をもって世界に飛躍するとともに、これからも能登半島地震の被災地の復興、発展に関心を持ち続けてほしい」と激励の言葉がかけられました。また、学業や卒業論文、修士(博士)論文、課外活動などの成果が優れていると認められた学生12名が学長表彰を受けました。

4月4日には、令和6年度金沢大学入学宣誓式を挙行し、学士課程1,975名、大学院793名、別科25名、計2,793名が入学しました。和田学長は告辞で「高い人間力と深い見識を身につけ、将来は『金沢大学ブランド人材』として、国内外のリーダーとして活躍してほしい」と入学者への期待を述べました。



大規模ソーラーパークを運用 大幅なCO₂削減を目指す

4月1日、本学初となる大規模な創エネルギーの取り組みとして、角間キャンパス北地区ソーラーパークの電力供給を開始しました。本学では「カーボンニュートラル」に向けた取組計画2023」に基づき、教育・研究開発と並行してキャンパスの省エネルギーおよび創エネルギーの取り組みを推進。ソーラーパークのシステム容量は775kWで大学全体の約1.3%に相当する465t-CO₂/年の削減を見込んでいます。



角間キャンパス北地区ソーラーパーク全景

秋篠宮皇嗣妃殿下が 学生や医療スタッフとご懇談

4月26日、秋篠宮皇嗣妃殿下が、角間キャンパスおよび附属病院にお成りになりました。令和6年能登半島地震で被災した子どもたちの学習支援に携わった学生ボランティアや、医療支援活動を行った医療スタッフとご懇談され、被災地の復興に向けた取り組みや、被災者支援について熱心に耳を傾けておられました。学生、医療スタッフには、キルト製のお花とともに、おねぎらいのお言葉をいただきました。



学習支援ボランティアに参加した学生らとのご懇談

学生、教職員が協働でキャンパス 環境の改善に取り組む

金沢大学では学生の声や思いを取り入れ、キャンパス生活をより良いものにしていくための環境整備を加速しています。これまで、「ナカフクリ食堂」オープンや公共シェアサイクル「まちのり」のサービスエリア拡大実験や「学修環境改善プロジェクト」など、さまざまなプロジェクトを実施。

2024年度はさらにパワーアップし、学生のみなさんとビジョンを共有し、一丸となって大学の未来をデザインしていきます。



1.学位記を授与される学類生
2.学長表彰を受けた学生と和田学長
3.学類生による入学者代表宣誓

文部科学省の大型事業等に採択 「未来知」により社会に貢献

文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」

本学が掲げる10年後のビジョン「文理医融合による非連続なイノベーションを創出し続ける世界的拠点の形成」からバックキャストし、基礎研究・融合研究の高度化や、社会実装の最速化を図ります。北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)および東京大学が連携機関となります。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「大学発新産業創出基金事業」「スタートアップ・エコシステム共創プログラム地域プラットフォーム共創支援」

本学とJAISTが主幹機関となり、北陸地域の12大学・3高専が提案したスタートアップ創出プラットフォーム“Tech Startup HOKURIKU”(Tesh)で、北陸発の世界にはばたく新産業の育成、新たな人材ニーズの発掘により、地域の活性化、社会課題の解決に貢献していきます。

文化庁「日本語教師養成・研修推進拠点整備事業」

これまでの日本語教師養成等の実績を生かして北陸地域にネットワークを構築し、日本語教育の現状を改善する拠点を整備します。

学生のための連載企画

Entertainment Information
on Kanazawa University

Enjoy !!

Acanthus 学生アワード

2023年度に学業や課外活動で活躍した学生や、学生が中心となった企画を紹介します。今回は番外編として卒業生の活躍をお届けします。

ゴミ拾いの新たな価値を 追求する活動で学長表彰

人間社会学域地域創造学類4年※の岡章太郎さんは、大学入学後にゴミ拾い団体「Findingゴミ」を創設し、ゴミ拾いがコミュニケーションを円滑にするという新たな価値を求めて活動を続けました。2023年度金沢市「いいね金沢環境活動賞」を受賞、令和5年度学位記授与式では学長表彰が授与されました。

※受賞時

北アイルランドで「One Young World Summit 2023」に参加

2023年10月2~5日、北アイルランドで開催された次世代サミットに、自然科学研究科博士前期課程2年(当時)の飯田寅太さんが参加しました。石黒さんは、自身の研究内容や海外インターンシップ経験などの国際経験に基づき、今後の教育に関する考え方について、G7各国の教育大臣らに英語によるスピーチを行いました。



学生による「いしかわ」発信フリー ペーパーが全国グランプリ1位

地域創造学類公認サークル「つづみ」が企画・制作した「Twinkle」Vol.16「飛び出す地図」がSOMPO Park学生フリーペーパーグランプリ2024で1位になりました。「つづみ」では、学生をターゲットに毎号テーマを定め、石川県の魅力を発信。今号では、石川県の寒い冬でも外に飛び出したくなるような企画を掲載しました。

Instagramの学生・プロジェクトは、金沢大学公式Instagramの投稿もご覧ください! kanazawauniv

「学修環境改善プロジェクト」学生が キャンパス内のスペースを改善

人間社会学域と文系の研究科の学生が参加したプロジェクトにおいて、学生が集中して自習したり、仲間と創造的な協働学習ができる学修環境の改善を検討しました。卓上で協働作業できるよう小型ホワイトボードを置くなど学生目線の細やかな改善策を多く考案し、2023年度中に角間キャンパス北地区で改善が完了しました。





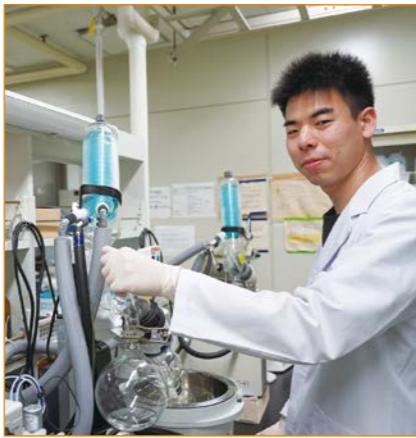
地域課題を解決する政策アイデア コンテスト全国で協賛企業賞

「地方創生☆政策アイデアコンテスト2023」で、理工学域3学類一括1年※の那須美月さんが地方審査で関東経済産業局長賞、本審査で協賛企業賞を受賞。「つくば市の若者・学生の地域への愛着向上に向けた実施計画書」と題し、人口流出への対応策としてベンチャー企業の立ち上げ支援による起業家育成を提案。※受賞時



がん治療の発展に貢献する研究で 国際誌に掲載、学会賞を受賞

医薬保健学総合研究科薬学専攻博士課程2年(当時)の越後拓亮さんらの共同研究グループは、がんの標的α線治療の効果増大を目指した薬剤の開発に成功し、論文が国際誌『European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging』に掲載されました。越後さんは、日本薬学会の学生優秀発表賞も受賞しました。



人命救助に貢献した学生4名に 令和5年度学長表彰を授与

理工学域3学類一括1年(当時)の助國日向さんは、川で溺れていた高齢者を発見、消防に連絡し、自ら救助用具を探して救助しました。理工学域地球社会基盤学類2年(当時)の塙田正明さん、白井渙太さん、大木慎一郎さんは、不明男性を捜索中の警察署員を、座り込む男性を見かけた場所まで案内し、保護につなげました。



将棋部が大学将棋のトップを争う 全国大会で3位

初心者も有段者も、アットホームな雰囲気で和気あいあいと活動する将棋部。2023年度は、学生将棋団体対抗戦(学生王座戦)とトリプルアイズ杯で全国3位。個人では人間社会学域経済学類1年(当時)の蛯澤俊太さんがオール学生将棋選手権戦で全国優勝。2024年度は、団体・個人ともに全国優勝を目指します。

アジア大会ローエンド女子エイトで 銀メダルを獲得

2023年9月25日、第19回アジア競技大会ローエンド女子エイトで、2021年人間社会学域学校教育学類卒業生の柿島麗さん(戸田中央総合病院ローエンドクラブ所属)擁する日本が銀メダルを獲得、また女性軽量級ダブルスカルで5位となりました。柿島選手は2023年シーズンに、日本代表に初選出されました。

世界マスターズ水泳選手権で 金メダルを獲得

2023年8月11日、福岡市で開催された世界マスターズ水泳選手権2023の400m自由形(40-44歳の部)で、2005年工学部卒、2007年自然科学研究科修了生の山本浩路さんが金メダルを獲得しました。山本さんは神戸市職員として働きながら週5回の練習を続けています。次の目標は同種目での日本新記録の樹立です。

4年振りに開催した医学展2023潜入レポート

金沢大学「医学展」は、医療従事者の仕事や医学の世界を身近に感じてもらうため、学生が主体となって行っている学祭です。2023年11月4日、5日、4年振りに開催し、大勢の来場者で賑わいました。



Acanthus No.54

Cover Model's Voice

English Version

Special Auditor,
School of International Studies
REED ADAM FREDERICK



Photo:Yuji Fujimori

Adam is British, but he was born and raised in the Netherlands. He is an international student from Leiden University in the Netherlands, which has an exchange program with KU. Lots of fun subjects and beautiful nature are the reasons he chose KU. His future is undecided, but he would like a career where he speaks Japanese if possible. His hobby is nunchaku-do and he has been doing it for 11 years!

| PRESENT |

金沢大学オリジナル
QUOカード(500円分)
10名様



金沢大学オリジナルQUOカード(500円分)を抽選で10名様にプレゼント。今号に挟み込まれている応募ハガキもしくは下記バーコードから応募フォームにアクセスし、アンケートにご記入の上、ご応募ください。

【応募締切】
2024年8月31日

*当選者の発表はプレゼント発送をもってかえさせていただきます。



金沢から 未来を紡ぐ。

被災地能登の営みを取り戻し、未来につなぐ。

文理医の異分野の知を融合し、社会につなぐ。

金沢から新しいコトをつくり、ヒトをつなぐ。

ヒトと、社会と、未来が、一つに紡がれたとき

新たな価値が生まれる。

ともに未来へ、金沢大学。



未来、社会、ヒトとつながる。

令和5年

■「未来知実証センター棟(仮称)」の建設を目的とした文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に採択された。

■本学が100%出資するベンチャーキャピタル「株式会社ビジョンインキュベイト」が設立された。

■文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択された。

令和6年

■能登半島地震の被災地の復興に資することを目的に「能登里山里海未来創造センター」を設置した。



TAKE OFF EVENT 開催!

令和6年8月27日(火) @石川県地場産業振興センター

